

脳幹梗塞における顔面神経麻痺に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019年12月10日～2022年3月31日

〔研究課題〕 脳幹梗塞における顔面神経麻痺についての後ろ向き研究

〔研究目的〕 大脳皮質から顔面神経核へ至る顔面神経皮質核路の走行経路や橋梗塞における顔面神経麻痺の特徴については、これまでの研究においても検討されていますが、未だに不明な点もあります。本研究では、延髄や橋などの脳幹に局限する急性期脳梗塞の症例において、病変局在や臨床症候を比較検討し、顔面神経皮質核路の走行経路や橋梗塞での顔面神経麻痺の特徴について検討することを目的とします。

〔研究意義〕 顔面神経皮質核路の走行や橋梗塞での顔面神経麻痺の特徴を明らかにすることは、より正確な病変局在の推定に役立ち、適切な治療・予後予測を行えるとすれば、意義が大きいと考えます。

〔対象・研究方法〕 2009年以降の、当科に入院した急性期脳梗塞患者様の臨床経過、神経診察所見、画像所見を後ろ向きに検討し、エントリー基準を設けて延髄や橋などの脳幹に局限した脳梗塞患者様を抽出します。それらの症例の種々の臨床的特徴と、画像所見を検討します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院神経内科

〔個人情報の取り扱い〕 収集したデータは、個人毎に匿名化したデータとしてデータ管理責任者が常時施錠される医局内のコンピュータのハードディスクに責任をもって保管し、パスワードを設定して研究責任者及びデータ管理責任者以外がアクセスできない体制とします。研究終了後には研究責任者が保管の対象となる記録類一式をDVD-Rに記録し、封かん用封筒に詰め、倫理委員会事務局に提出します。帝京大学臨床研究センター（以下、「TARC」）による保管期間は研究終了から10年であり、研究責任者から延長の申し出がない場合は、TARCにより適切に破棄されます。また、学会論文等での公表は集計結果のみであり、個々人の情報は提示しません。

〔その他〕 特記事項なし。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：帝京大学医学部神経内科・臨床助手 神林隆道

研究分担者：帝京大学医学部神経内科・主任教授 園生雅弘

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部附属病院神経内科 (03-3964-1211) [内線 7346]